

第2回 揖斐川流域五流総地域委員会 議事概要

揖斐川流域五流総地域委員会事務局

日時：平成25年11月29日（金）9:30～11:40

場所：西濃総合庁舎 5階 5-1会議室

1. 議事

- 「揖斐川流域における総合的な治水対策プラン」の改定について
 - (1) 個別河川の補足説明について
 - (2) 河川構造物の長寿命化・耐震化について
 - (3) 前回委員会での意見について
- 今後の進め方について
- その他

2. 議事要旨

- 「揖斐川流域における総合的な治水対策プラン」の改定について
 - 事務局より、治水対策プラン対象河川の抽出結果、次期短期目標（今後10年間）の整備区間（案）、緊急点検要対策箇所、各河川の現状と課題及び次期短期目標について説明があり、質疑がなされた。
 - 各項目について交わされた質疑応答の主な内容は以下のとおりである。
 - (1) 個別河川の補足説明について
 - ・ 杭瀬川で生物調査をやられたときに、特定外来生物は見つからなかったか。
 - 要注意外来生物であるアメリカザリガニは確認されたが、特定外来生物について確認されたとの報告はない。
 - (2) 河川構造物の長寿命化・耐震化について
 - ・ 旧水門川の排水機場について、長寿命化・耐震化という考え方もあるが、設置後63年が経過していること、かつ、大垣市内の生命と財産を守る最も重要な施設と考えられることから、全面的な改築ということについても考えていただきたい。また、隣接する国管理の排水機場についても同じように老朽化していることから、一体的に調整を図り、計画を立てていただきたい。
 - 排水機場は絶えず稼働する状態にしておかなくてはならないため、全面的な改築が決まるまでは長寿命化および耐震化を進める必要があると考えている。また、一体的な整備ということについても、市とともに国に要望を出すなど、十分調整がとれるように働きかける。
 - ・ 樋門・樋管、水門について、地震時の津波の河川遡上も検討対象になっているか。
 - 津波の遡上については、現在、国交省で検討をしている段階である。県管理区間には国管理区間から伝播してくるので、その結果を今後入手し、必要であれば、また今後新しく検討することになる。
 - ・ 電気設備について、実施されている通常の絶縁テストなどの結果はどう活用しているか。
 - 電気設備について、確かに通常の絶縁テストなどは実施しているが、設備として

の機能劣化については確認しづらい面がある。

(3) 前回委員会での意見について

意見無し

○ 今後の進め方について

事務局より今後の進め方が説明されたが、特に質疑は無かった。

○ その他

- ・河川構造物の進化により、洪水被害は減少している。一方、それに連れて地域住民の水防意識は低下している。よって、河川管理者の方にはハード面の対応もさることながら、ソフト面への対応・住民の関心喚起についても更なるご努力をいただきたい。